

## 例言

- 1 本書はベトナム社会主義共和国クアンナム省ホイアン市（旧クアンナム・ダナン省）の町並み保存調査にかかわる旧市街地の発掘調査報告書（『ベトナムの日本町ホイアンの考古学調査』昭和女子大学国際文化研究所紀要Vol. 4）である。

町並み調査に関する報告書は、『ホイアンの町並みと建築』（昭和女子大学国際文化研究所紀要Vol. 3）として報告済みである。そのなかに、考古学調査の略報をのせているが、紀要Vol. 4の本書が考古学調査の正式報告である。

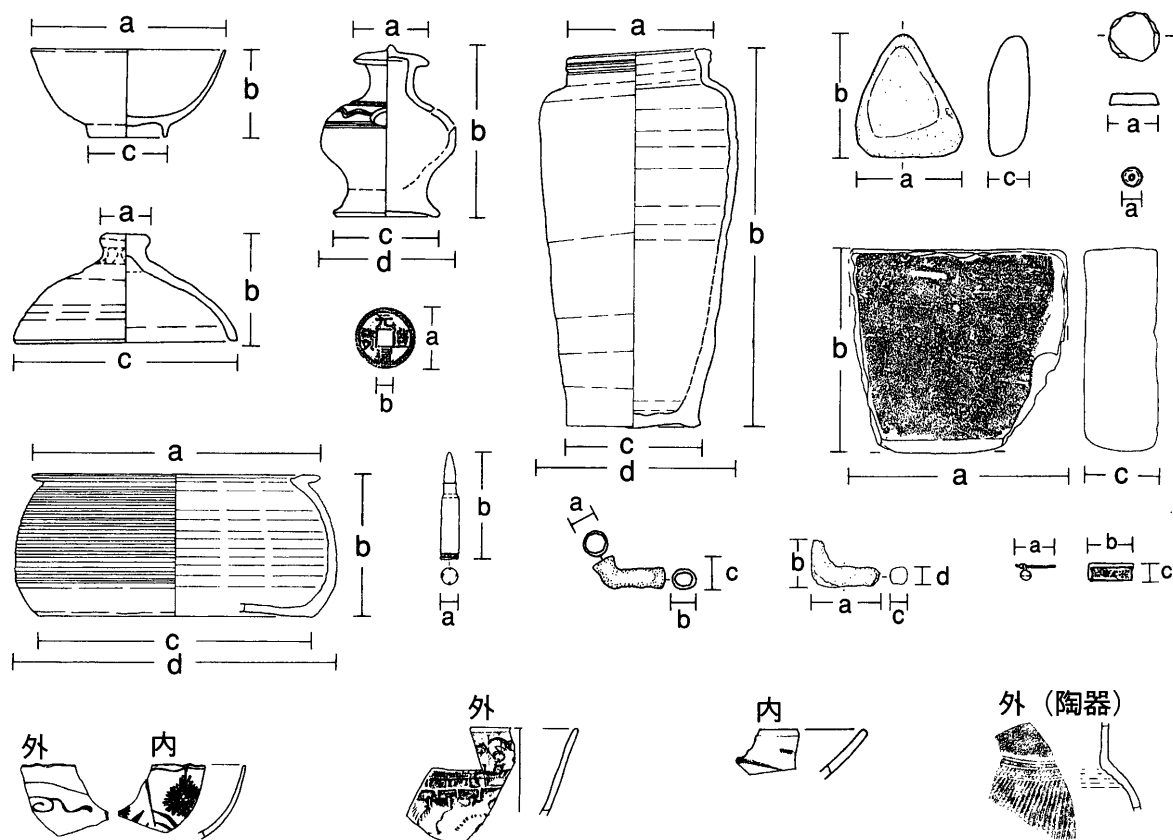
- 2 発掘調査は、ホイアン町並み保存プロジェクトチームのもとで、日本側考古学調査団（顧問：櫻井清彦・昭和女子大学大学院教授、責任者：菊池誠一・昭和女子大学講師）がホイアン市遺跡保存管理センター、ハノイ国家大学、クアンナム・ダナン省博物館（旧）と合同でおこなった。
- 3 発掘調査は、1993年3月と9月、1994年1月・3～4月、7月、1995年7月におこなった。また、出土遺物の整理は、ホイアン市において1995年から1997年まで断続的におこなった。報告書の編集・校正作業は、1997年10月から1998年6月まで、昭和女子大学でおこなった。
- 4 本書は、櫻井清彦監修のもと、菊池誠一が編集をおこない、昭和女子大学大学院生の阿部百里子、斎藤潤花がこれを補佐した。
- 5 各原稿の執筆者名は文頭、あるいは文末に記した。
- 6 出土遺物の実測は、菊池誠一、阿部百里子、斎藤潤花、菊川 泉、熊崎 保、草鹿涼子、田中克子がホイアン市でおこなった。
- 7 出土遺物の拓本は、櫻井清彦、菊池誠一、阿部百里子、斎藤潤花、菊川 泉がホイアン市でおこなった。
- 8 出土遺物の観察表は、上記実測者の図面をもちいて、菊池誠一、阿部百里子、斎藤潤花が作成した。なお、中国陶磁器・肥前磁器については、大橋康二氏のご教示をいただいた。
- 9 遺構や遺物のトレースは、菊池誠一、阿部百里子、斎藤潤花、菊川 泉のほかに、井上美奈子・佐藤愛子（昭和女子大学日本文化史学科3年）、竹田純子・館まりこ・桜田晶子・東嶋啓子（同2年）、石井岳美（同1年）がおもにおこなった。ほかに岩城志麻と竹内麻理（昭和女子大学大学院生）の助力をいただいた。
- 10 本書の写真図版の撮影は、航空写真と調査状況・遺構写真を菊池誠一、遺物写真を菊池誠一・阿部百里子がおこなった。
- 11 出土遺物はホイアン市遺跡保存管理センターが管理し、ホイアン市貿易陶磁博物館に保管している。
- 12 遺構図面や遺物図面、写真の管理を昭和女子大学でおこない、原図のコピー保管をホイアン市遺跡管理センターでおこなっている。
- 13 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏、諸機関よりご助言、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます（順不同、敬称略）。

長谷部楽爾、量 博満、青柳洋治、西谷 正、西田宏子、新田栄治、森本朝子、山本信夫、城戸康利、佐久間貴士、永田信一、山形真理子、時枝 務、菊池 実、小宮俊久、杉山秀宏、金井安子、扇浦正義、鈴木裕子、橋口定志、樋口由紀雄、大脇三千代、林 良彦、増田千次郎、松尾信之、松尾信裕、入澤雪

絵、定森秀夫、森 毅、森村健一、積山 洋、嶋谷和彦、桐生直彦、能芝 勉、辻田文雄、山本輝久、  
富永樹之、Phan Huy Le、Luong Ninh、Hoang Van Nhan、長崎市教育委員会、堺市埋蔵文化財センタ  
ー、大阪市文化財協会、京都市埋蔵文化財研究所、千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会

## 凡 例

- 1 遺構図版のスケールは1/40で、遺物図版は1/3で統一している。ただし、銅銭については原寸である。
- 2 陶磁器の実測図は、断面図の左側に外側文様と内側文様を図示した（下図参照）。また、陶器の外側文様は断面図の左側に図示した（下図参照）。
- 3 土層や陶磁器の色調の観察には、新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を使用した。ただし、発掘調査初期や遺物実測の初期の頃には、これを使用していない。そのため、本書中に色調記号表現のないものもある。
- 4 陶磁器の法量については、下記の部位を計測し、観察表にのせている。



（垂線のあるものは外側文様、ないものは内側文様）